令和6年度おおさか農政アクションプラン評価・点検部会　議事概要

日　　時　令和6年7月3日（水）　14：00～16：00

場　　所　大阪府咲洲庁舎37階　会議室（小）

出席委員　増田部会長、藤田委員、髙井委員

内　容

**１　事務局説明**

**■「おおさか農政アクションプラン」昨年度の取組み実績の評価について**

**■新規事業および重点事業について**

**２　委員の主な意見**

**■「おおさか農政アクションプラン」の昨年度の取組み実績の評価について**

**【しごと】**

〇経営改善支援

・経営改善支援では、販売額増加総額での記載を一人当たりに直すなど、中身が見える状態の方が分かりやすい。

・販路を考える時に上手くJAのサポートを選べるような形に持っていくことも大切。

・全般的に、きっちりと実施したことを評価する、効果計測をしていくということが技術蓄積やノウハウの蓄積につながる。

・経営強化コンサルプロジェクトは一定効果を発揮しているが、支援対象者の選定の公平性や、コンサルティングの効率性、ニーズとのマッチング等について配慮が必要。

　　・地域の篤農家の方や農の匠といった方は地域での新規就農者等からの相談を受けておられると思う。それを吸い上げる仕組みや情報管理が大切。

　　・企業参入において、直接的に生産するだけではなくて、大阪産（もん）の加工業者や販売業者が増えていくといった視点も大切。

　〇評価指標

・次期プラン策定時にはアウトプット型指標ではなくて、アウトカム型指標をどう設定するかが課題である。評価にあたってアウトカム指標をどのくらい設けていくのか、そろそろ検討が必要。

　　・技術普及することと経営基盤の強化とを相互に評価できるような仕組みを作っておかないといけない。

例えば、スマート技術では、技術導入でどれくらい生産効率・販売価格が向上したか。

基盤整備の効果では、整備によって、新規参入、規模拡大や、生産販売関係金額がどれだけ上昇したか。

　〇異常気象への対応

・異常気象の際の害虫の大量発生への対応など、大阪エコ農産物の認定基準を下げるなど、検　討してはどうか。

**【くらし】**

〇万博の関連・産地への導き等

・万博は一つのきっかけであって、大阪産（もん）を食べた方に生産現場や地域にお越しいただくような仕組みづくりが大切。街中との連携の戦略を持つ必要性がある。

・今後どのような形で食と農の部分が連携していくのか、関係者がどのように協同すれば良いかといった発想を持つため、生産者側に機会を作っていくことも必要。

・マーケットインで農業に対して求められている多面的な機能や役割にどう答えていくのか、という産地や生産の在り方について、どこかで考えていく必要がある。

　　・サプライチェーンとしてどう確立していくのか、どう見えるようにしていくのかなども必要。

・地元ガイドとのマッチングサービスやガイドの育成支援なども必要ではないか。

〇脱炭素社会

・脱炭素社会に貢献する農業生産はまだ新しい項目なので指標を設定していないが、設定していった方が面白いかもしれない。

〇大阪産（もん）

・ロゴマークを申請した方に、簡単なWebアンケート調査で消費者の反応等の質的なデータを聞くなど、そういうデータは取っておいた方が良い。

**【地域】**

〇農を知り、農に参画する機会の充実

・直接的に活動した人だけでなく、関係人口まで拡大してはどうか。例えば、ふるさと納税の返礼品で大阪の農産物を指定している市町村数とか、何を指定しているのか、マイクロツーリズム実施市町村・団体数まで対象にしてはどうか。

・国では関係人口の議論において省庁を超えたパッケージ化をしているので、都道府県もパッケージ化していく必要がある。

・関係人口はダイレクトよりも、中間支援組織（インターミディアリー）がどう機能していくかが非常に重要。

・都市部では農地でないところ（空地の後をコミュニティガーデン、府営公園内等）における農の活動でコミュニティの活性化を図っている事例が結構出てきている。

**■新規事業および重点事業について**

**【担い手の確保・育成】**

〇農業大学や地域での農業塾等を卒業したらその農地あるいは地域で就農できる、チャレンジできるようにすると非常に効果が高いと思う。

**【農業生産基盤の整備水準向上に向けた検討】**

〇水の供給も大事だが、オランダで実施されているような、大阪の工業地域から二酸化炭素のパイプラインみたいなものを供給できないか。どこからでもすぐハウスに二酸化炭素がとれると、施用効果が高い。あるいは、各市町村で、新しいクリーンセンターを作る時には、熱と二酸化炭素を地域に供給しますよといった形で、地域産業へつなげられないか。

**【地域計画策定の進捗と実現への支援】**

〇実現地区が具体的にどれくらいきっちりとした地域計画、人・農地プランにつながっていって、面的整備につながっていくのか、そのあたりが非常に重要。農空間づくり協議会は設立が目的ではなくて、面的整備にどうつながっていくかとか、地域計画にどうつながっていくかが重要。

〇地域計画策定を支援するにあたっては、本当に実現地区につながるようなところと、ある程度諦めないといけないところなど、何タイプかに類型化して、その類型化に基づいて、今後どういう戦略をそこに投入していくのか、かなり真剣に議論しないともったいない。

〇面整備をどちらかというとアウトプット型でやってきている中で、担い手やマネジメントの仕組みをどう絡ませてアウトカムの評価につなげていけるかといった話が必要。

〇実現地区が見えてきたら、今後の営農意向に関して、本人だけでなく、パートナーや子どもの思いを把握するようなきめの細かさもいる。